

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3291800013		
法人名	株式会社 海愛		
事業所名	グループホーム ふくろうの森 1Fひだまりユニット		
所在地	島根県邑智郡川本町川下1319-15		
自己評価作成日	平成21年10月25日	評価結果市町村受理日	平成21年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://nllcp-//kounyou-c.tukushi-shimane.or.jp/in/kaigoin/informationPublic.do?JCD=3291800013&amp;SC">http://nllcp-//kounyou-c.tukushi-shimane.or.jp/in/kaigoin/informationPublic.do?JCD=3291800013&amp;SC</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成21年11月18日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑の山々に囲まれた江川のほとりで、のんびりとふくろうタイムを楽しんでいます。そんな中で認知症の方と時を共にしながら、認知症の理解とより良いケア、尊厳のある生活について皆で考え取り組んでいます。型にはまらないそれぞれの生活を、家庭的な馴染みの環境の中で送り”今”を、楽しく生きることを大切にしています。より質の高いケアを目指し、担当による継続ケア、研修リーダーによる各種研修会、ユニットリーダーによるチーム作りと、職員一人ひとりも輝ける職場作りをしています。地域の中の一員として、地域の行事や災害訓練への参加、散歩や立ち話を通し、地域のみなさんとしたいに身近な関係になってきているのを感じています。地域の方がふくろうの避難訓練やイベントにも、気軽に出かけられるようになりました。利用者の安全を守るために医療、家族、地域、行政との連携を大切にしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念である「サービスの質は職員の質により保証します。」の実践に努め、人としてのマナーや職員の資質の向上に力を入れ、家族や地域からの信望が着実に築かれているホームである。開設当時から地域の一員として地域に根ざした運営を心がけ、利用者の自由な外出や希望を尊重した支援を通し認知症への理解を深めてきた。職員の意識にも変化が見られるようになり、利用者好きなことを暮らしてもらおうとゆとりを持った対応ができるようになった。利用者はピアノを弾いたり職員や仲間とおしゃべりを楽しみ自分自身の存在感を意識しながら楽しく生活している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根付いたサービスを目指し、日々のカンファレンスなどで理念に触れそれに基づいたケアの実施について話し合っている。理念をホールやトイレ内に掲示し日常的に意識付けようとしている。	開設時からの理念を職員全員で見直し、具体的でわかりやすい内容を付け加え、常に意識しながら日々の実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の一員として、地域の行事に参加したり散歩に出かけた先での立ち話を楽しんだり、利用者の地元へ買い物や散歩に出かけたりしている。また、事業所の行事に地域の方を誘い交流を持っている。	自然な形で地域の人と交流している。自治会活動やホーム行事を通しての交流、広報誌の発行、在宅児や中学生、ボランティアとの交流など積極的で、声をかけてもらうことが多くなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は認知症ケアの啓発に熱意をもって取り組んでいる。ヘルパー2級の養成、中学生のボランティアや職場体験、障害者の実習のほか、講演、講師などにも関わることがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間計画にそってサービスの実際や評価への取り組みなどを報告して意見をもらっている。利用者と共に過ごしてもらう時間を作り、そこからの感想などを聞く機会も作っている。	利用者の生活ぶりを見てもらい感想や意見を聞いたり、活動状況を報告しホームへの理解を深めている。避難訓練や地域との連携等についても意見交換しサービスに活かしている。	会議への家族参加が増えることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や健康福祉課、包括支援センターに気軽に出入りできる関係ができていく。機会ごとに、現状や経過の報告、サービスへの取り組み、活動状況について報告、相談している。	管理者と市町村担当者は日頃から気軽に情報交換をしよう関係が築かれていて、共にサービスの向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修修了者を中心に、研修会を行い身体拘束について理解を深め、利用者側からみた介護について考えている。言葉、態度によるロックについても話し合う機会を日常的に持っている。	利用者の人権を尊び、日常的に研修や話し合いを行い身体拘束をしないケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修修了者を中心に、研修会を行い虐待について理解を深め、利用者側からみた介護について考えている。小さな気づきも報告し話し合う機会を日常的に持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護職員に必要な知識として、資料をもとに学習する機会を持っている。必要と思われる場合はこちらから情報を提供したり、包括支援センターに相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する書類の説明は、わかりやすく説明し要望や心配なことなどを聞き確認しながら話している。契約後もいつでも気軽に聞いてもらえるよう声掛けし、必要時には確認するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	まずは、何でも言える関係作り、雰囲気作りに努めている。家族の来訪時には、気付きや意見などどうようにしている。生活の中での利用者の声は大切にシケアに結びつけるようにしている。	家族の訪問時に気づきを書いてもらう用紙を渡したり、家族会で接遇や環境についてのアンケートを実施し意見の引き出しに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、意見や提案を気軽に言える環境作りに努めている。朝のミーティングや会議など必要に応じて意見の交換などをし反映させている。	職員同士の話し合いを大事にし、出された要望や提案を検討して働きやすい環境作りをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々への声掛けやねぎらいの言葉がけ、話し合いなどを行いながら、人の質を高めケアの質を高めるための職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加し、内部での研修会や報告会などで学びを共有している。日常的に機会をとらえた職場内研修も行っている。ヘルパー、介護福祉士の資格習得を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開所時から思いは持っているが、きちんとした形はできていない。研修や連絡会などの活動を通し他事業所との交流や情報交換は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人と面接して、不安や困っていることを直接聞く機会をもっている。言葉での表現は難しくても、表情、しぐさなどから心情を組み取るように努め、安心につながる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族と面接し困っていることや状況を伺い話し合うことにより、安心につながる関係作りに努めている。不安なことなど、いつでも相談に応じることを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	いま何のサービスが必要かを考え、適切なサービスの提案や紹介をしている。それにより他の事業所やサービス、ケアマネを紹介することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としてたくさんの生活の知恵を教えて頂きながら、お互いの生活を支えあえるような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密にして情報交換をしながら、共に本人を支えていく関係作りに努めている。家族の写真などを話題にして、家族の存在が身近に感じられるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで利用されていたお店に買い物に行ったり、地元のイベントに出かけたりしている。親しい方の来訪はみんなで歓迎し、過ごしやすい環境を提供している。	買い物や美容院、地元のイベントへの参加、知人との交流など、利用者の入居前の生活を大切にし馴染みの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し生活を楽しめるよう、席やお出かけの時など配慮している。レクリエーションなどを通し利用者同士の関係作りに努め、孤立感を感じられないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も家族からその後の様子を伺ったりしている。必要に応じ相談や支援をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の思いや希望などの把握に努めている。困難な場合は本人の気持ちになり話し合っている。部屋でのくつろぎを好まれる方には、好きな時にゆっくりお茶ができるように準備している。	利用者の話しをよく聞き、思いを表せない人にも表情や仕草、体への触れ合いを通し、共感しながら思いを把握している。利用者の「きれいな花を見て一杯飲みたい」の言葉に即対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や馴染みの暮らし方、これまでのサービス利用の経過などを伺っている。家族の来訪時に必要な追加情報を収集したり、電話で相談、確認する場合もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	目先の現象にとらわれず、全体像を見るように心がけている。出来ること、わかる事の発見などは、記録に残し職員で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、担当医などの思いや意見を介護計画に反映させている。担当職員を中心に月1回のモニタリングを行い、介護計画の修正、追加などについて話し合っている。	担当者が情報を集め、利用者や家族、関係者の思いを反映させた計画を立てている。毎月モニタリングを行っているが、必要時には随時話し合い見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット利用者の1日の様子がわかるように項目ごとに記録できる一覧表にしている。記録はいつでも見られ、情報収集をしてから勤務についている。最終的には個別に項目ごとに縦読みできるように処理している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況により、イベントへの参加、ドライブ、外食、病院受診など、必要な支援や楽しみの提供に対応している。地域の医療機関と24時間医療連携が取れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、警察、消防署や病院また、ボランティアや近隣との連携をとり関係を作るための働きかけをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が変わる場合は医療の継続されるよう情報提供をしてもらっている。定期以外の受診などは特に家族との報告、連絡、相談を密にしている。病院受診は家族対応としているが希望があれば代行している。	利用者、家族の納得したかかりつけ医による受診支援をしている。郡内には医療機関と福祉関係者による「地域医療連携」があり、安心した関係が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、細かい気づきなどもいつでも報告、相談できるようにしているため、スムーズにきめ細やかな対応ができています。24時間対応で医師、看護師に連絡できる体制をとり活用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療が効果的に受けられるよう情報提供をしている。入院は担当医やソーシャルワーカー、家族と情報交換をしたり話し合いを持ち早期退院へと支援している。対応がスムーズにできるよう普段からの関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	適切な時期に、本人、家族、かかりつけ医と話し合いながら終末に向けての方針を決めている。医療行為の量や事業所で出来ることなどについて何度も話し合い確認しながら、最期までその人らしく人の温もりの中で暮らせるようチームで共有し支援している。	利用者、家族の希望がありホームでの対応が可能であれば看取りを行うという事業所としての方針がある。職員、関係者は話し合いを重ねながら最善の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て救急蘇生法の研修を毎年実施し全職員が参加している。他に応急手当普及員による講習も実施している。事件事例への具体的な対策を話し合い共有するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いで火災時の避難訓練、通報訓練を実施している。地域の方の参加もあり運営推進会議でも取り上げ連携を深めている。地域の災害避難訓練にも参加し、自治会用非常時備蓄米の協力をしている。	年間計画に基づき避難訓練、通報訓練などを行い年1回は地域の人にも参加してもらっている。地域の避難訓練にも参加し備蓄も意識的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	直接的な言葉かけや対応のみでなく考えから学習する機会を持ち、個別の指導も行いながら一人ひとりの尊重とプライバシーの確保について常に考えている。	利用者の希望に沿った生活を見守り、排泄時の援助も利用者の誇りを傷つけないような声の大きさ、声かけの仕方を配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの希望や関心、好みなどを見極め、また、表情や仕草からのサインを見逃さず受け止めている。思いを表出しやすい関係作り、言葉や態度に努めている。本人に合った選択方法を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態やペース、思いに合わせた生活を支援している。外出や買い物、献立なども希望を取り入れゆったりとした生活を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室には鏡付き洗面台を置き身だしなみ等、声掛けをしながら楽しんでいる。美容院は馴染みの所を優先し訪問もして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりができることを把握し個別に準備から片付けまで参加出来るように努めている。職員と共に会話を楽しみながら食事をしている。	野菜を切ったり盛り付けをしたり、台ふき、食器ふき等、利用者の力を活かしながら職員と一緒にやっている。近くの農家から新鮮な野菜を仕入れ食材としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況が把握しやすいように記録の工夫をしている。個別に活動量や体重、病気等に配慮したカロリー、食事形態としている。必要時には、医師、栄養士、STに相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	肺炎予防、口腔ケアの必要性を理解した上で支援している。生活習慣の違いを考慮しながら起床時、毎食後、就寝前など個々に合わせて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターン、サインを知り、適切な言葉かけによるトイレ誘導をするように努めているが、まだ十分とは言えない。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人に合わせた排泄支援をしている。重度の人が多いユニットでは支援の仕方を模索している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ひとり一人に応じた自然排便を促すよう、食事内容、水分摂取の工夫や運動、腹部マッサージなどを行っているが、まだ十分ではない。必要に応じて医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は本人の希望でいつでも入って良いとしている。入浴をあまり好まれない方にはその気になられる声かけなどを工夫している。	利用者の希望を聞きながら支援をしている。現在は夜間入浴をする人はいないが、対応できる体制は作られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の休息も自由にし、状態により休息を勧めることもある。十分な睡眠が取れるよう日中の活動、入眠までの関わりなど個別に支援している。ちょっと横になれるようホールにベッドを準備した。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書をいつでも見れるようにしている。内容を確認しやすいように一覧表を作り、服薬までに3回チェックしている。薬局とは日常的に何でも聞ける関係を築き、家族にも薬剤情報を提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好みや趣味、行きたいところ、食べたい物、嗜好品などの楽しみの支援に努めている。役割を通して出来ることの喜びやねぎらい、感謝の言葉はおしまずに伝え、次の意欲似つなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	洗濯物を干したり畑を見に行ったりついでにベンチでひなたぼっこをしたり、ウッドデッキでおしゃべりを楽しんだりしている。車椅子の方も天気の良い日は外に出るよう努めている。	ホーム周辺を散歩したり、ひなたぼっこ、買い物、ドライブ等、利用者の希望や職員が誘いかけをしながら状態に合わせて支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理、お出かけの時に財布を持って出る、事業所管理など、個別の方法で支援しているが、再度本人の思いを確認して取り組みたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に対して何かを伝えたいという気持ちはとても大切なのでいつでも電話などできるようにしている。こちらから、家族への電話や手紙を勧めることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気や季節感を取り入れて、外の様子も楽しめるようにしている。利用者一人ひとりが安全に過ごせるよう椅子や場所などにも配慮している。	利用者の作品や季節の花を飾り落ち着いた環境作りをしている。安全に過ごせるように家具の置き場所にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や玄関先、物干し場、散歩道に椅子やテーブルを置き、好みの場所で過ごされるようにしている。一人ひとりが一番落ち着ける環境を設定できるよう、明るい雰囲気作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具などがある部屋作りについて家族に説明している。利用者と相談してベッドや家具の位置などを変え使いやすくしている。居室で過ごすことが多い利用者には明るい部屋を提供している。	家族の写真や花、掃除用具等、利用者に合わせた物品を置き、安心できる居室づくりをしている。家族の協力もありタペストリー等が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯ものや台所の様子が見える環境で、その様子を見て利用者から動かれたり声を掛けられることが日常的にある。		